

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	14 秋田市街地の渋滞緩和と公共交通の円滑な運行を支援する街路整備		
計画の期間	平成21年度～平成25年度（5年間）	交付団体	秋田県、秋田市
計画の目標			

秋田市街地の主要渋滞箇所の緩和と公共交通（バス）の円滑な運行を支援する。
 ～骨格道路の整備により、交通容量が拡大されるとともに交通が分散され、市街地の渋滞が緩和し公共交通（バス）の定時性を確保する。

計画の成果目標（定量的指標）										
①秋田市街地の主要渋滞ポイントにおける通過時間の減少 ②定時性が確保されたバス路線数										
定量的指標の定義及び算定式										
						定量的指標の現況値及び目標値			備考	
						当初現況値 (H21当初)	中間目標値 (H23末)	最終目標値 (H25末)		
①秋田市街地の主要渋滞ポイントにおける通過時間の減少を算出する。 ΣC02削減アクションプログラム(H17)で位置付けられた交差点のうち未解消の主要渋滞ポイントにおける最大通過時間（分）						102分	90分	80分		
②秋田市内のバス路線のうち街路整備により定時性が確保されたバス路線数を算出する。 Σ道路整備をしたバス路線、またはそれと平行するバス路線のうち、定時性が確保されたバス路線数						-	12路線	26路線		
全体事業費	合計 (A+B+C)	5,581 百万円	A	5,537 百万円	B	0 百万円	C	44 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.8%

事後評価		
○事後評価の実施体制、実施時期		
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期	平成27年度
各事業主体へヒアリングし、秋田県建設部都市計画課で取りまとめを実施	公表の方法	秋田県ホームページで公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																		
A 地方道路整備事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接/間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
											H21	H22	H23	H24	H25			
14-A1	街路	一般	秋田県	直接	秋田県	S街路	改築	川尻広面線（寺町）	街路整備 L=0.3km	秋田市	■■■					1,025	H24地域自主	
14-A2	街路	一般	秋田県	直接	秋田県	S街路	改築	千秋広面線（手形）	現道拡幅 L=0.5km	秋田市						81		
14-A3	街路	一般	秋田県	直接	秋田県	S街路	改築	横山金足線（飯島）	街路整備 L=2.3km	秋田市						315		
14-A4	街路	一般	秋田県	直接	秋田県	S街路	改築	新屋土崎線（山王）	現道拡幅 L=1.0km	秋田市	■■■					1,306	H24地域自主	
14-A5	街路	一般	秋田市	直接	秋田市	S街路	改築	外旭川新川線（八橋）	街路整備 L=1.0km	秋田市						982		
14-A6	街路	一般	秋田市	直接	秋田市	S街路	改築	明田外旭川線	現道拡幅 L=0.1km	秋田市						34		
14-A7	街路	一般	秋田市	直接	秋田市	S街路	改築	泉外旭川線	街路整備 L=0.6km	秋田市						1,201		
14-A8	街路	一般	秋田市	直接	秋田市	S街路	改築	外旭川新川線（寺内）	街路整備 L=0.7km	秋田市						567		
14-A9	街路	一般	秋田市	直接	秋田市	S街路	改築	秋田環状線（牛島駅前）	街路整備 L=0.7km	秋田市						26		
合計																5,537		
B 関連社会資本整備事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接/間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考		
										H21	H22	H23	H24	H25				
合計																0		
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考						

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H21	H22	H23	H24	H25		
14-C1	社会実験	一般	秋田市	直接		社会実験	公共交通利用促進施策整備事業	バス行き先表示に関する実証実験	秋田市						6	
14-C2	公共交通	一般	秋田市	間接	バス事業者	公共交通(バス)	バス表示システム改良	行き先表示LED化、表示内容変更等	秋田市						0	実績無
14-C3	計画調査	一般	秋田県	直接		計画・調査	事業効果検証事業	新規事業検討等、中間評価・終了評価	秋田市						38	
合計													44			

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
14-C1	バス行き先表示の改良検討、試験運行等により公共交通(バス)の利便性・運行の円滑化を検証する。	
14-C2	バス利用者の利便性が向上することで、公共交通(バス)運行の円滑化を促進する	
14-C3	当計画の効率的・効果的な展開を図ることを目的として、新規事業検討や中間時・終了時の評価等を行うことで、事業のPDCAサイクルの実践を図る。	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・新屋土崎線(山王)の現道拡幅によって、主要渋滞ポイントである山王十字路口交差点や茨島交差点などの交通渋滞が緩和され、最大通過時間が短縮された。 ・横山金足線(飯島)や外旭川新川線(八橋)のバイパス整備等によって、交通の分散による円滑化が図られ、路線バスの定時性が向上した。 				
II 定量的指標の達成状況	指標①(主要渋滞ポイントにおける通過時間)	最終目標値	80	分	目標値と実績値に差が出た要因	目標値とほぼ同値。
		最終実績値	82	分		
	指標②(定時性が確保されたバス路線数)	最終目標値	26	路線	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・改善はされているものの、整備箇所の前後区間で未改良区間が残っており、実績値が減少。 ・バス路線の廃止や変更によって、バス路線数が減少したため。
		最終実績値	18	路線		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		川尻広面線(寺町)や新屋土崎線(山王)において、現道拡幅にあわせ無電柱化を実施したことで、安全で快適な歩行空間の確保、都市景観及び都市防災性が向上した。				

3. 特記事項(今後の方針等)

引き続き、新屋土崎線(旭南)、川尻広面線(横町)及び外旭川新川線(寺町)等の未改良区間の整備を行い、一層の整備効果の促進を図る。

(参考様式3)

社会資本総合整備計画 参考図面

